



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2007.9

No. 281

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



50歳、セントポール島遠征記

榎本秀和(鴻巣市)

◇はじめに

若い頃、漠然と思っていた。

「50歳までには400種見たい」

そう、50歳までに日本国内だけで野鳥を400種見ることが、私のひとつの目標だった。

ところが「400種」は意外に早かった。

43歳にして達成してしまったのだ。プロ野球でいえば「2000本安打達成」のようなものだから、まさしく我が人生における快挙である。

そして今年1月、私は50歳の誕生日を迎えた。6月1日現在、私の日本国内ライフリストは441種(下表)。数字にこだわる気はないが、目標を達成しきった充実感は何とも言いがたい。ここはひとつ何か記念に…、ということであつた。久しぶりの海外遠征を決意した次第である。

となれば、行く先はもう決まっている。

埼玉県支部きつての海鳥ファンである私が白羽の矢を立てたのは、アメリカ合衆国アラスカ州はセントポール島(右ページ地図の★印の場所)。海鳥ファンなら一度は訪ねてみたいベーリング海の小島だ。

幸いパスポートの有効期間は残っている。非常時(?)に備え「赤尾の豆単」も手荷物に忍ばせ(笑)、準備完了。

表 日本国内ライフリスト

(本年6月1日現在)

埼玉県内での観察あり	195種	44.22%
他の都道府県のみ	246種	55.78%
内訳 関東地方	127種	28.80%
その他の地方	108種	24.49%
舩倉島・飛島	11種	2.49%
合計	441種	100.00%

◇いざセントポール

成田からアメリカ本土・シアトルを経て、まずはアンカレッジへ。そこで一泊。翌日、アンカレッジから小型プロペラ機で飛ぶこと4時間。セントポール島の飛行場に無事に到着。宿舎となる飛行場のコテージに荷を降ろす。

島の人口は550人ほど。住民は私たちと同じモンゴロイドであるアレウトの人々だが、その生活はアメリカ式である。

おりしも季節は夏至。北極圏とアリューシャン列島弧の間に位置するこの島は、既に白夜の日々であるが、晴れることは少なく、霧と海風にさらされた荒々しいツンドラの大地はいまだ凍えている。6月とはいえ、埼玉の厳冬期の気候だ。森林限界を超えているため、木立はおろかブッシュさえない。

しかし、動物も植物も短い夏の始まりを謳歌して、生命の営みは確実に輝きを増している。

ひとたび断崖を見下ろせば、岸壁に所狭しとたたずむ千余のウミガラス、ハシブトウミガラス、エトロフウミスズメ、コウミスズメ、ウミオウム、ツノメドリ、エトピリカ、チシマウガラス。しかも皆、夏羽だ。ミツユビカモメやアカアシミツユビカモメ、フルマカモメも舞い飛んでいる。

海岸には、これまた千余のオットセイの群れがたむろし、原野をホッキョクギツネが闊歩する。

地表では、寒冷に適応した草花が可憐に咲き競っている。厳しい気候のせいで株は小さいが、野生の忘れな草も自生している。

小鳥類は種類こそ少ないが、ユキホオジロ、ツメナガホオジロ、(ハイガシラ)ハギマシロはコモンだ。チシマシギも多い。

毎日、午前8時半から午後9時半過ぎまで

(何しろ暗くならないのだ) 自然観察に没頭したが、少しも飽きることはなかった。一見荒涼とした島だが、生命を育む懐は深い。



◇おわりに

北海道の岬や航路で、苦労して探した海鳥を間近に観察することが今回の遠征の大きな目的だった。

あっけなくその目的を遂げ、そのうえコケワタガモ (♂♀)、ケワタガモ (♀のみ) まで見ることができた。地上に降り立ったシロハラトウゾクカモメの姿は、まさしく極北の地の光景そのものであり、神々しくさえあった。

その反面、期待していたベーリングユキホオジロなどは見ることができなかった。聞くところによれば、2年くらい前から見られなくなったという。地球温暖化の影響だとしたら問題は深刻である。

何はともあれ、感動と感激のうちに3泊4日はあっという間に過ぎて行く。

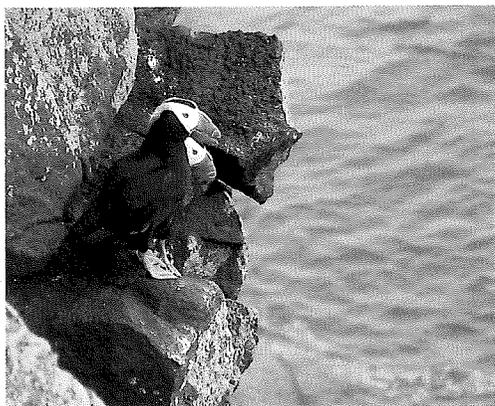
「Forget me not…」

いよいよ帰路に就く日の昼下がり、飛行場の片隅に遊ぶ (ハイガシラ) ハギマシコに向かって、思わず心の中で呼び掛けてしまった。島で過ごした数日は、私にとって一生涯の思い出となるだろう。

ちなみに、Forget-me-not (忘れな草) はアラスカ州の州花である。

◎島で観察したその他の野鳥

アカエリカイツブリ ハシボソミズナギドリ ヒメウ (ヒメ) シジュウカラガン ユガモ オナガガモ シノリガモ ハクトウワシ ミズカキチドリ アカエリヒレアシシギ セグロカモメ ワシカモメ ウミバト ウミスズメ ウトウ ワタリガラス



エトピリカ (鈴木律雄)



ツノメドリ (鈴木律雄)

ミゾゴイの声の記録

新井哲夫（比企郡）

毎年、自宅近くでミゾゴイが鳴きます。

近年、ミゾゴイは大変少なくなっているという話を聞きますが、棲みいいのか、餌が豊富なのか、繁殖に適しているのか、毎年必ず飛来しています。

そこで、ここ10年間に自宅近くでミゾゴイの声を聞いた日を以下のようにまとめてみました。

月	日	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07
4	1										
	2										
	3										
	4							●		●	●
	5							●			
	6							●			
	7							●		●	
	8			●		●			●		
	9			●	●				●		
	10			●	●		●	●		●	●
	11			●	●		●	●	●		●
	12					●	●	●		●	●
	13					●	●	●		●	●
	14					●	●			●	●
	15					●	●			●	●
	16					●			●		●
	17			●		●			●		●
	18					●			●		●
	19					●		●	●		●
	20					●		●	●	●	●
	21							●	●	●	●
	22							●	●	●	●
	23						●		●	●	●
	24					●			●		●
	25				●			●			●
	26							●			●
	27							●			●
	28			●							●
	29									●	●
	30	●									



ミゾゴイ（蟹瀬武男）

月	日	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07
5	1										
	2	●									
	3										
	4										
	5										●
	6							●	●		●
	7		●					●			
	8							●			
	9										
	10		●								●
	11		●			●					
	12										●
	13					●					
	14					●					●
	15										
	16		●	●							
	17		●	●							
	18										
	19		●								●
	20		●								
	21										
	22		●		●			●		●	●
	23		●					●		●	●
	24		●					●		●	●
	25		●					●		●	●
	26		●					●		●	●
	27		●					●		●	●
	28		●					●		●	●
	29		●					●		●	●
	30		●					●		●	●
	31		●					●		●	●
6	1									●	●
	2									●	●
	3	●								●	●
	4							●		●	●
	5									●	●
	6							●		●	●
	7									●	●
	8							●		●	●
	9									●	●
	10								●	●	●
	11								●	●	●
	12								●	●	●
	13		●						●	●	●
	14								●	●	●
	15								●	●	●
	16								●	●	●
	17								●	●	●
	18								●	●	●
	19								●	●	●
	20									●	●
	21										
	22										
	23										
	24										
	25										
	26										
	27										
	28										
	29										
	30										●

※'07年には7/22及び7/23にも鳴いた。

戸隠飯綱高原探鳥会

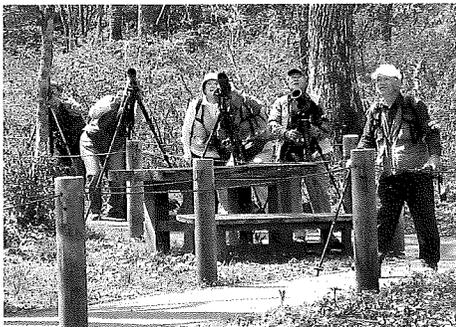
藤掛保司 (川越市)

5月26日(土)朝、JR新幹線長野駅のコンコース広場には、集合時刻の1時間前に到着する新幹線に乗車した人達も数人待っていて、皆さん、行事案内の「赤い鳥」に期待されている様でした。メインリーダー作成の「戸隠・飯綱高原探鳥会のしおり」で参加者28名を確認、コースの概要等の説明とリーダー4名の紹介。早くも長野駅前でイワツバメをゲット。奥田旅館からの大型観光バスに乗り。新緑の美しい景色を見ながら、大座法師池に到着。

カルガモ、ニューナイスズメ等を見てから、大谷地湿原ではカッコウ、オオヨシキリの声。姿はなかなか見えませんでした。ミズバショウの遅咲きの花を見て、リュウキンカやニリンソウの群生等と野草も多く観察できました。

森林植物園に移動。戸隠連峰は黄砂の影響で霞んでいました。みどりが池では、カイツブリとカルガモが杭の上に1羽ずつ。シャッターチャンス。整備された木道を進み、埼玉県支部会員のご夫婦や、各地から来ていた探鳥会グループとご挨拶を交わす。キビタキがあちこちで見られ、「綺麗！」との歓声。アカゲラも多く見られたし、オオアカゲラを見た人達も。また早朝、アカショウビンを見たとの情報もあって、期待がふくらみました。

夕食に手打ちそば等を食べ、恒例の自己紹介では、明日に期待の「赤い鳥」、「青い鳥」、即ちアカショウビン、コルリ、オオルリの姿が見たいとの、あちこちからのご注文で盛り上がりました。



2日目、27日(日)の早朝探鳥会は午前4時30分出発。23名参加。森林植物園内をひたすら歩くこと約1時間。遠くに「アカショウビン！」の声。小走りに声のする方向に…

「いたっ、いたっ、あそこに！」。期待の鳥の姿が見られたのです。2羽確認した人も。周辺には合計4個体はいたようでした。初めて見た人の感激ははかり知れません。

ここ戸隠飯綱高原の探鳥会では10数年前に女性のみ観察したとか。昨年の夏には、奥田旅館のおかみさんから「鳴き声が聞こえるので、お越し下さい」との電話連絡もありました。

サンショウクイ、ミソサザイ、コルリ、キバシリ、ノジコ等を見てから、午前6時からの早朝探鳥会で宝光社周辺を廻られたグループとの情報交換。オオルリ、アオゲラ等は、お留守の様でした。

朝食後は再び森林植物園へ。今朝も、埼玉県支部会員の別のご夫婦から同行を依頼され、キビダンゴなしで同行者が増える桃太郎の気分。

随神門から、オオルリ探しとアカショウビンのお礼参りに、奥社まで行くことに。杉並木の周辺からポツポツと小雨模様となりましたが、奥社までたどりつき雨宿り。帰り道オオルリをゲットした人達もいました。

最後の探鳥場所、戸隠牧場では、カッコウ、ハクセキレイ、イカル等の姿も見られて、2日間の探鳥会も無事終了。旅館に戻って、遅い昼食と鳥合わせ。53種は平年並みでしたが、なんといってもアカショウビンの鳴き声と姿が観察でき、大きなお土産として心に残る事でしょう。

(写真：長谷川訓寿)



野鳥情報

さいたま市緑区中野田 ◇4月9日、埼玉スタジアムの遊水池でクサシギ3羽、コチドリ10数羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇4月9日、ケリ1羽を確認。4月26日にも隣接する岩槻区高曽根で水浴びするケリ1羽を観察。◇4月30日、まだ水が入っていない田の畦に、羽毛に包まれたムクドリ大のケリのヒナ2羽、付近に親鳥2羽がいて、近寄ってくるカラスやキジバトに、「ケリリッ、ケリリッ」とさかんに威嚇していました（佐藤宏）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月13日、アシ原でセッカ鳴き出す。4月15日、オオタカ飛翔。4月18日、コムドリ5羽が木の新芽周辺で、おそらく青虫を食べていた。4月20日、コムドリ5羽、オオヨシキリが「ギョギョシ、ギョギョシ」と鳴き出した。カワセミも元気。4月21日、越冬したカケスたちの中で尾のなかった1羽は尾羽が伸びてきた。ヤブサメ、センダイムシクイの声、クロジ♂若鳥1羽、コムドリ3羽、アカハラ。オオヨシキリの声。「ホーホケキョケー」と一音よけいなウグイスも健在。4月23日、ヤブサメの姿をちらりと確認。コムドリ7羽、ゴイサギ成鳥が飛ぶ。アカハラ、シロハラ、ツグミは残留中。4月24日、センダイムシクイ2羽。5月3日、センダイムシクイ3羽、ぐぜるオオルリ♀1羽、モズの若鳥確認（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月20日、ムナグロ

38羽、タヒバリ2羽など。4月21日、ムナグロ21羽、チュウサギ2羽など。4月23日、ムナグロ70羽以上、アマサギ1羽など。4月24日、ムナグロ約70羽と約40羽の2群。4月26日、ムナグロ約70羽。5月6日、ムナグロ28羽（鈴木紀雄）。◇5月2日、ムナグロ31羽、やわらかく鳴き交す。5月3日、ムナグロ41羽。5月5日、ムナグロ87羽、キジ♂1羽。5月7日、ムナグロ62羽、クサシギ1羽、キアシシギ1羽、イソシギ1羽（本多己秀）。

さいたま市岩槻区平林寺 ◇5月4日、ムナグロ60羽（本多己秀）。

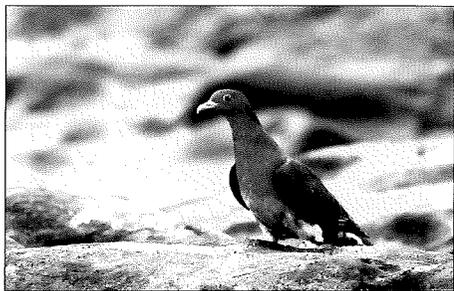
さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇4月13日、ピクニックの森でさっと枝にとまる猛禽、ツミだった。短距離飛行を繰り返して、森の奥へ消えた。4月17日、子供の森でキビタキ♀2羽、クロジ♂5羽♀1羽、シロハラ、アカハラ、ルリビタキ♀など。上空をオオタカ通過（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区見沼 ◇4月17日、車運転中に前方上空を舞うサンバ1羽確認（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区深作遊水池 ◇4月22日、イソシギ1羽、タカブシギ4羽、クサシギ1羽。4月27日、オオジュリン、ヒバリ、ツバメ。オオヨシキリの声、今季初認。5月2日、タカブシギ1羽、コガモ、カルガモ、セッカ、オオヨシキリ、ツバメ、アオサギ（本多己秀）。

さいたま市見沼区片柳 ◇4月26日、林内で「シー、シー」と鳴きながら枝にとまるアカハラ約15羽の群れ、シロハラも入っていた（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇4月28日、ムナグロ11羽、キジ♂♀、オオジュリン、ヒバリ、ツバメ、ツグミ。5月1日、チュウシヤクシギ1羽、タカブシギ1羽、ムナグロ約90羽。5月3日、チュウシヤクシギ1羽、ムナグロ25羽、コサギ、オオヨシキリ、ヒバリ、セグロセキレイ、ツバメ。5月5日、ムナグロ52羽、コチドリ1羽、ヒバリ、ツバメ、ダイサギ、コサギ、セッカ。5月6



湘南海岸のアオバト(大澤 祐)

日、キジ♂1羽、ムナグロ35羽、キアシシギ7羽。5月7日、ムナグロ64羽、キアシシギ2羽、コアオアシシギ2羽。当地でコアオアシシギを見るのは久しぶりです(本多己秀)。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇5月3日、ムナグロ56羽、キョウジョシギ1羽。5月5日、ムナグロ35羽(本多己秀)。

越谷市レイクタウン工事現場 ◇4月22日、キジを観察(小菅靖)。

越谷市谷中町 ◇5月3日、ムナグロ20数羽。5月4日午後2時、ムナグロ約60羽。当地では毎年ムナグロを数羽観察しているが、今年は多くてビックリ(小菅靖)。

伊奈町小室 ◇4月23日、水田でムナグロ30羽(鈴木紀雄)。

菖蒲町小林 ◇4月23日、越冬したニューナイスズメ約15羽がまだいた(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇4月24日、東埼玉病院内東縁で樹上で小声でぐぜるオオルリ♂1羽。4月28日、同所で「ヒリリ!」と短く尻上がりに強くなるサンショウクイの声を聞くも姿見られず(鈴木紀雄)。◇4月27日、田んぼでミヤマガラス約40羽(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇5月3日、チュウシャクシギ2羽。5月6日、チュウシャクシギ1羽、田んぼで水浴び。コサメビタキ1羽(本多己秀)。

蓮田市笹山 ◇5月5日、ムナグロ22羽、キアシシギ1羽。畔におりているコアジサシ2羽を確認。5月6日、ムナグロ68羽、キアシシギ1羽、コチドリ2羽の飛翔(鈴木紀雄)。

蓮田市川島 ◇5月5日、ムナグロ33羽。5月6日、2羽(鈴木紀雄)。

春日部市内牧 ◇4月24日、一枚の田にチュウサギ8羽(鈴木紀雄)。

春日部市飯沼 ◇4月30日、ムナグロ約20羽の群れ3群、チュウシャクシギ4羽、タカブシギ1羽(山部直喜)。

上尾市中分 ◇4月29日午前6時10分、大宮ゴルフコースの森でキビタキ、ホール左側の桜並木にて「シーチャン ポンポコリン」とさえずる。同日午前6時15分、ヒヨドリ

の渡り、同じゴルフ場上空を北東へ30羽十、おしゃべりしながら渡る(立岩恒久)。

吉川市高富 ◇4月30日、ムナグロ110羽十、チュウシャクシギ23羽(山部直喜)。

杉戸町才羽 ◇4月30日、水田でムナグロ6羽(鈴木紀雄)。

杉戸町並塚 ◇4月30日、水田でムナグロ25羽(鈴木紀雄)。

川口市西新井宿(森林) ◇4月30日、オオルリ♂1羽、さえずってくれたのでわかった。高いところにとまっていたので、観察していたら首が痛くなった。クロジ♀1羽、一瞬「アオジか?」と疑ったが、胸の部分に黄色味がないので間違いない(須崎聡)。

松伏町松伏緑ヶ丘公園と東側水田 ◇5月9日午前10時、ムナグロ、キョウジョシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、キアシシギ、コチドリ、キジ、ヒバリ、オオヨシキリ、セッカ、コガモ、カルガモ、バン、オオバン、カイツブリ、アオサギ、カワウ、ダイサギ、ムクドリ、ツバメ、カワラヒワ、スズメ、ハシブトガラス(宇田川武男)。

渡良瀬遊水地 ◇3月25日、ノスリ3羽、ミサゴ1羽、ハヤブサ1羽、チュウヒ1羽、トビ、セグロカモメ約30羽。水面ではマガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ。オオジュリンがアシ原から舞い上がっては、フライングキャッチで虫を捕っていた。3月29日、ミサゴ、トビ、アカゲラ。コチョウゲンボウ2羽、チュウヒ約10羽が罅入り(鈴木紀雄)。

川島町下八ツ林 ◇シラコバト繁殖、5月2日孵化(菊池弘)。

飯能市奥武蔵グリーンライン ◇5月7日午前8時半過ぎ、林道を登っている時、崖の下にヤマドリ♀1羽。右側端に何かいると思ひ停車すると、すぐ前をトコトコ歩いて左側草地に入り込んだ。(小林ますみ)。

表紙の写真

**スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属
ヤマガラ**

昨年(2006年)9月、熊谷市別府沼公園で撮影。好物のエゴの実を頻繁に取りに来ていました。
鶺鴒飼喜雄(深谷市)



行事案内



エゾビタキ(寺添捨男)

リーダー研修会 (要予約)

期日：9月2日(日)

会場：埼玉県自然学習センター

詳しくは7月号9ページをご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：島田、中里、大澤、倉崎、和田、森本、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：この時期に大麻生でツツドリ、ショウドウツバメ、エゾビタキなどが、英気を養い通過していく。足もとにはセンニンソウの白い花。ヒガンバナも赤く咲く。トンボも赤く舞っている。小さな秋を見つけにお出かけください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月15日(土) 午後3時～4時ごろ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月16日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎

見どころ：芝川の工事は8月末に終了予定。干潟やアシ原、鳥たちのすみかが再生するのを待ち焦がれている日々です。川岸に保全された見沼のシンボル「プラタナスの大木」を見上げながら、秋風の吹く見沼で鳥見をします。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月17日(月・祝)

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越 8:13→坂戸で越生線 乗り換え 8:42 発。または寄居 7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR 川越線大宮 7:34→川越で東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、久保田、増尾、志村、高橋(優)、林、原、藤澤、山田(義)、持丸、山口

見どころ：キコキコキーとイカルの群れが梢で鳴いている。モズも高鳴き、高麗川沿いの田んぼで赤いヒガンバナや秋の草花も観察できます。30 数種の野鳥を皆で探しましょう。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月17日（月・祝）

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願いします。

◆大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分、大久保浄水場の西北角近くの土手の上、運動公園入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要。雨天でも行います。また、秋はシギチが少ないこともあります。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月23日（日）

集合：午前9時45分、東武伊勢崎線北越谷駅東口、集合後8:50発エローラ行きバスで「松伏高校前」下車。または午前9時30分松伏記念公園北駐車場。

担当：田邊、橋口、大塚、植平、吉岡(明)、土澤、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：何といてもサギの種類と個体数の多さが当地の自慢。じっくりと観察、堪能しましょう。ヒタキやシギの仲間もお楽しみに。何も出なくたって、秋の田園散策だけでも健康増進（食欲増進も）間違いなしです。

タカの渡り調査

期日：9月22日（土）、23日（日）

半日空を眺めているだけで貴重なデータが得られ、タカ類についての知識も増えます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山（飯能市）：23日（日）

集合：午前9時から正午まで。ご都合のよい時間に山頂展望台へお越しください。

近くに水洗トイレあります。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆物見山駐車場（東松山市・鳩山町）

◆小川げんきプラザ本館屋上（小川町）

いずれも調査時間は22日（土）朝から正午過ぎまで。ご都合のよい時間にお越しください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口

見どころ：季節の移り変わりを身近な生き物を通して感じましょう。モズの高鳴きにヒガンバナ、南へ渡る鳥たちも探します。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月20日（土）～10月21日（日）

集合：20日午前9時10分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52

→大宮7:18→熊谷7:32→高崎7:50→

長野8:43着）、または「あさま505号」（東京7:28→大宮7:52→長野8:53着）

費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充（

）まで

担当：菱沼(一)、藤掛、中里

見どころ：昨年はムギマキの当たり年でした。意外な出会いも待っているかもしれません。もちろん、新そば、きのこなど、食べる楽しみも盛り沢山です。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



行事報告

2月24日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 12名 天気: 晴

カイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ トビ オオタカ ツミ チョウゲンボウ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (30種) 狭山湖堤防の上は、立っているのもやよとの強い北風。それでも湖面にはマガモ、コガモの残り少ない群れと、沖合にカンムリカイツブリの群れが健在で、寒風を我慢しながら観察した。波立つ近場にカンムリと一緒にいたミミカイツブリを識別点の確認をしながら観察することもできた。風でスコープが転倒、破損したKさんに、北風に成り代わって「ゴメンナサイ」。(石光 章)

2月25日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 37名 天気: 快晴

カルガモ シラコバト キジバト ハイタカ カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ ウソ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) スタート直後の滝宮神社でウソ、シロハラ、アオゲラ、アオジを観察。なぜかシラコバト(元気がなくうづくまっていた)まで出現した。その後、地元の参加者情報でカワセミを観察できた。仙元山は貯水施設撤去工事中で、鳥影が薄く、参加者は期待はずれだったようだが、ジョウビタキとルリビタキ、ツグミとシロハラの採餌行動の違いや、エゴノキとヤマガラの関係などを解説した。(小池一男)

2月25日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 46名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ

ヒドリガモ トビ チョウゲンボウ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 出発して間もなくキセキレイが登場。村国池では、カケスの群れや餌を一心不乱に突くヤマガラ、コゲラ、上空にはチョウゲンボウと観察するのに大忙し! 散策の森からテニスコートに向かう途中でウソ(♀タイプ)やシロハラに出会う。テストコースでは、アオジ、ジョウビタキ、シメ、さらにはウグイスの姿も確認。天候にも恵まれ、和やかな雰囲気探鳥会となった。(長野誠治)

2月25日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 30名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ キジ イカルチドリ タゲリ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 暖冬のせいか鳥の数が少ない。それでもセキレイ、カモが川辺で姿をゆっくり見せてくれる。トイレ休憩中にタゲリが60羽位飛んできて田圃に降りたので、コースを少し変えて近くまで行った。久しぶりに柳瀬川の探鳥会でタゲリが見られた。(佐久間博文)

3月4日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 69名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 穏やかな晴天の下スタート。河原でコハクチョウの小群、対岸でさえざるガビチ

ヨウをじっくり見られた。桜並木でウソの小群が、真下の私たちを気にする様子もなく、桜のつぼみを盛んに食べていた。鉢形城跡では、緑地の陽だまりにスマレの花が咲き、春を感じる探鳥会だった。(井上幹男)

3月4日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 64名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ コジュケイ キジ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ アリスイ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) スタート直後にアカゲラを皆でじっくりと見た後、上沼、アシ原、林を順に周って定番の鳥たちを見た。上沼北のアシ原に戻る頃にはさらに暖かくなり、3月初旬には珍しく蝶が多数飛んでいたのが印象的だった。今シーズン3回連続でアリスイが出現し、最後にオオタカが空を飛んで締めくくった。(玉井正晴)

3月10日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 53名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ バン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 第6回目の共催探鳥会。オープニングミーティング最中にチョウゲンボウの頭上からの歓迎を受け、何か良い暗示のもと、和やかなムードでスタート。青毛堀川岸では空にヒバリが囀り、足元からホオジロが飛び立った。植物園ではアカハラやシロハラを、アシ原でキジを全員がゆっくり観賞。終わって見れば観察種40種参考1種で、3月の記録を更新。この季節見られる鳥のほとんどを見たという感じで、皆満足して帰途に

着いた。

(長嶋宏之)

3月11日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

3月11日(日) さいたま市 見沼自然公園

雨のため中止。

3月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

新井浩、池田泰右、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、島田貴子、千野安以、藤掛保司、増尾隆

3月18日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 45名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ オナガガモ オオタカ ノスリ イカルチドリ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) カイツブリを見ていたら、イタチが水浴びする様子が、一緒に見られ、皆さん大喜びだった。以前は、傾斜林に白いものが見えるとヤマセミだったが、今回はノスリが止まっていた。鳥合わせ中に、カラスの鳴き声で空を見上げたら、オオタカが、モビングされながら通過した。カワセミとセグロセキレイの、探鳥会観察連続記録36回(12年間)を達成した。集合前にイカル、解散後にトビ、ミサゴ等を見た人たちもいた。(藤掛保司)



ベニマシコ(又部綱仁)



●「渡良瀬遊水池をラムサール登録地に」署名活動最終報告

渡良瀬遊水池をラムサール条約にする会事務局(栃木県小山市)から届いた7月27日付け報告によれば、第2次分として7,592名の署名を7月25日に藤岡町長に提出、第1次分(昨年12月4日、7,884名分)と合わせると、署名総数は15,476名分となりましたとのこと。

その報告には、当支部に対して「特に貴会におかれましては、2,677名の署名のほか、他のグループへの呼びかけを積極的にされまして、その貢献度は計り知れません。あらためてお礼申し上げます。」との文章がありました。

当支部の担当幹事内田孝男は、「3月31日に一応締め切った段階では2,616名でしたが、その後の追加で最終的には2,677名になりました。遊水地内での埼玉県が占める面積は2.4%ですが、署名数は17%を超えました。支部の野鳥保護活動への思いが伝わり、うれしい限りです。」と語っています。

ラムサール条約登録地になる道は険しく、今後は地元行政の合意を得るための取り組みが必要になりますが、署名活動にご協力頂いた支部会員の皆様、関係者の皆様、多くの皆様に心からお礼申し上げます。

●シロハラクイナ、今年は農薬散布に対する要望書を提出しませんでした

今年は7月25日(水)早朝に空中散布作業が行われ、藤掛保司支部長が立ち会いました。

昨年、散布したのはカメムシを対象とする低効力の農薬で、魚類や中型以上の昆虫には影響なく、散布後1時間程度で無毒化するとの説明を聞いています。それでも昨年同様

合は、雛が孵化して間がなかったものですから、万一の影響を懸念して、農薬散布抑制の要望書を提出したものです。

しかし、今年は約1ヵ月早く孵化し、低効力の農薬による影響はあまり考えられないほどに、すでに大きく生長していました。そこで、様々な状況を考慮して、今年には要望書を提出しなかったものです。

その後も、4羽の雛たちの元気な姿は観察されています。ご安心ください。

●事務局の予定

- 9月1日(土) 編集部・普及部・研究部会議
- 9月8日(土) 10月号校正(午後4時から)
- 9月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)
- 9月16日(日) 役員会(午後4時から)

●会員数は

8月1日現在 2,256 人です。

活動報告

7月14日(土) 8月号校正(海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

7月15日(日) 役員会(司会:海老原美夫、関東ブロック協議会への対応・行事予定の変更・その他)。

7月20日(金) さいたま市みどり推進課主催、第3回見沼田圃ホームページ開設準備会に出席(楠見邦博)。

7月23日(月) 「支部報だけの会員」に向けて8月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

久しぶりに群馬県I森林公園に立ち寄った。20数年前、公園内の水場に野鳥が寄ることがまだ知られていなかった頃、頼まれて寄贈した私のへたくそな写真が、当時の埼玉県支部の三角ワッペンと一緒に、まだ休憩所に飾られていた。ワッペンの企画販売に力を尽くしていたKさんは、大分前にあの世に旅立ってしまった。(海)

しらこぼと 2007年9月号(第281号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙使用。 印刷 関東図書株式会社